

2024年3月期第1四半期決算電話会議説明および議事録

参考資料:2024年3月期第1四半期決算説明資料

[https://www.mitsui-](https://www.mitsui-kinzoku.com/LinkClick.aspx?fileticket=0ZA6f3IlWUM%3d&tabid=159&mid=1060&TabModule1202=0)

[kinzoku.com/LinkClick.aspx?fileticket=0ZA6f3IlWUM%3d&tabid=159&mid=1060&TabModule1202=0](https://www.mitsui-kinzoku.com/LinkClick.aspx?fileticket=0ZA6f3IlWUM%3d&tabid=159&mid=1060&TabModule1202=0)

(補足) PKG : パッケージ基板

HDI : マザーボード (High Density Interconnect)

■ご説明

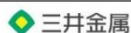
2023年度第1四半期決算



- ・第1四半期前年同期比では、MicroThin™など機能材料セグメントの主要製品の販売量減少や金属価格、貴金属価格が下回って推移したことにより減収となった  
上記に加え、エネルギーコスト上昇や金属価格および貴金属価格下落に伴う在庫要因等の影響により減益となった
- ・通期予想は、機能材料セグメントの主要製品の販売量減少や金属価格、貴金属価格が想定を下回って推移していることを織り込み、前回予想比で減収を見込む  
上記に加え、金属価格および貴金属価格下落に伴う在庫要因等の影響から営業利益は前回予想比で減益を見込むが、経常利益は受取配当金など営業外収入の増加により前回予想と同額を見込む

(単位: 億円)	第1四半期実績			通期予想		
	2023 実績	2022 実績	増減 (23-22)	2023 今回予想	2023 前回予想	増減 (今回-前回)
売上高	1,475	1,651	-176 -10.6%	6,050	6,450	-400 -6.2%
営業利益	-55	182	-237 -	110	200	-90 -45.0%
経常利益	51	254	-204 -80.0%	200	200	0 0.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	25	217	-192 -88.3%	95	100	-5 -5.0%

Copyright © Mitsui Mining & Smelting Co., Ltd. All Rights Reserved.



1

決算説明資料1ページ「2023年度第1四半期決算」をご覧ください。

・当社の2024年3月期第1四半期決算は、売上高は1,475億円、営業損益はマイナス55億円、経常利益は51億円、親会社株主に帰属する四半期純利益は25億円となりました。前年同期比では、円安による好転材料はあったものの、マイクロシンなど機能材料セグメントの主要製品の販売量減少や金属価格、貴金属価格が下落傾向で推移したことにより、売上高は10%超の減となりました。損益ではこの減収の影響に加え、エネルギーコスト上昇や金属価格および貴金属価格下落に伴う在庫要因等の影響により大幅な減益となりました。

・これら足元の状況を踏まえて、2024年3月期の連結業績予想を見直した結果、売上高6,050億円、営業利益110億円、経常利益200億円、親会社株主に帰属する当期純利益95億円と見込んでいます。

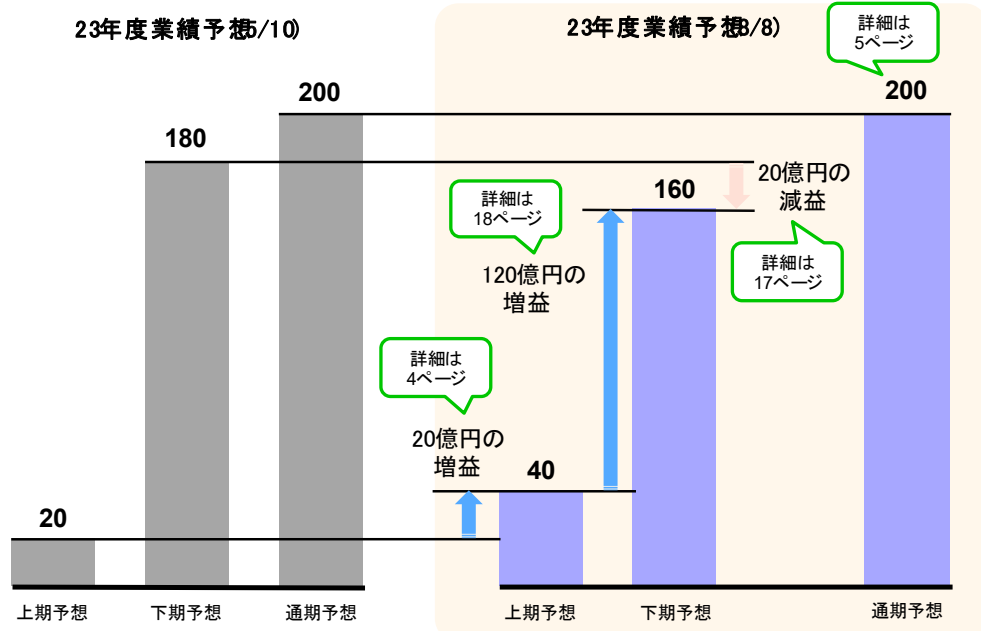
・前提となります金属価格や為替は決算説明資料16ページをご参照ください。



## 23年度経常利益見込

23年度経常利益は、上期は前回業績予想比で20億円の増益、  
通期は前回業績予想と同額を見込む

(単位: 億円)



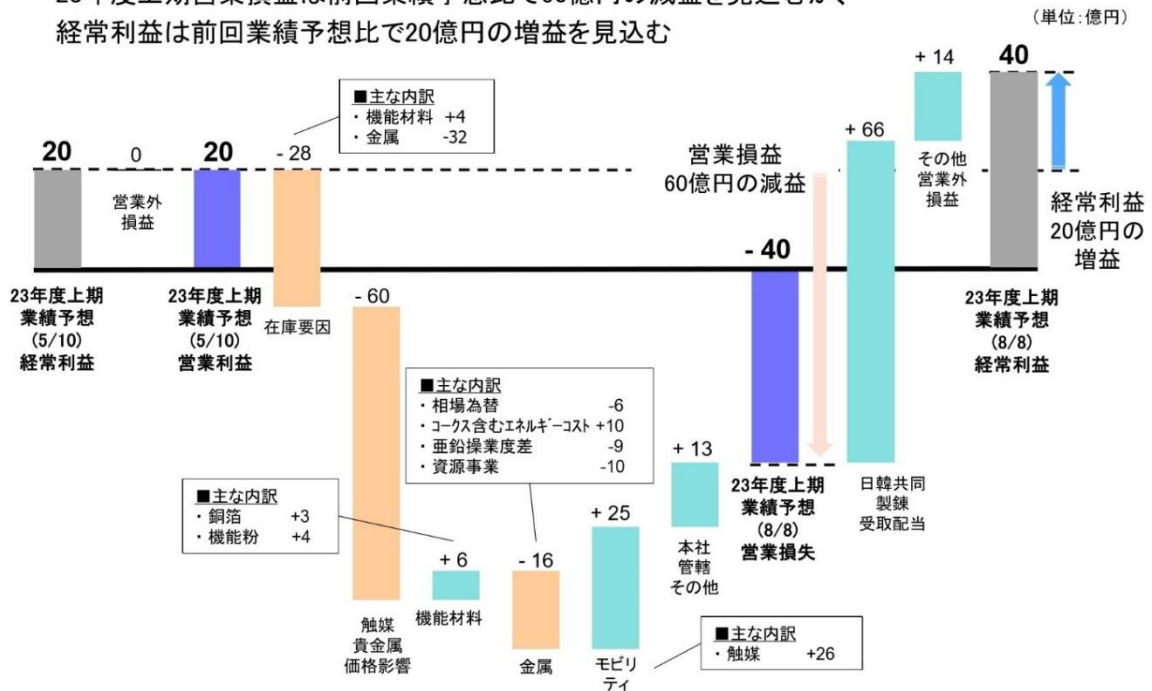
通期見込みの詳細につきましては、決算説明資料3ページの「23年度経常利益見込」をご覧ください。

・繰り返しになりますが、足許の市況や金属および為替相場を踏まえて、上期および通期の業績予想を見直しました。上期経常利益は、従来予想より20億円増益の40億円、一方下期は20億円の減益を予想しており、結果的に通期の経常利益は従来予想通り200億円と見込んでいます。詳細につきましては次のページ以降でご説明いたします。



## 23年度上期経常利益見込

23年度上期営業損益は前回業績予想比で60億円の減益を見込むが、  
経常利益は前回業績予想比で20億円の増益を見込む



最初に上期業績予想の内容についてご説明いたします。決算説明資料4ページをご覧ください。

・まず、営業利益の差についてですが、左から3本目の青い棒グラフが従来予想の営業利益、右から4本目の青い棒グラフが今回見直した数値です。20億円のプラスで見込んでいたものをマイナスの40億円と60億円下方修正いたしました。為替は想定より円安で推移しているものの、3,000\$/tで見込んでいた亜鉛価格が2,400\$/t前後と、想定に届いていない状況を反映し、在庫要因で28億円の減益を見込んでいることや、特にロジウム価格が想定のお半分にまで下落していることにより触媒の貴金属価格影響で60億円のマイナスを見込んでいることといった一過性の減益要因が90億円近くあることが利益を大きく減らす要因となっています。

・これらを除くセグメント別ですが、機能材料セグメントで6億円の増益を見込んでいます。銅箔の販売量については、MicroThin™はPKG向けが想定に届いていないものの、HDI向けが想定を上回っておりMicroThin™としてはほぼ想定通りの販売を見込んでいます。一方コスト面ではエネルギーコストが想定を下回ったことから、銅箔については増益を見込んでいます。

・金属セグメントでは16億円の減益を見込んでいます。相場下落による減益やワンサラ鉱山のフル操業回復が4月から6月に遅れたこと等がその要因となっています。モビリティセグメントでは25億円の増益を見込んでおりますが、これは触媒事業の販売量が二輪・四輪ともに好調なことなどが主な要因です。その他本社管轄等で13億円の増益もありますが、一過性要因の影響が大きく、上期営業損益はマイナスの40億円を見込んでいます。

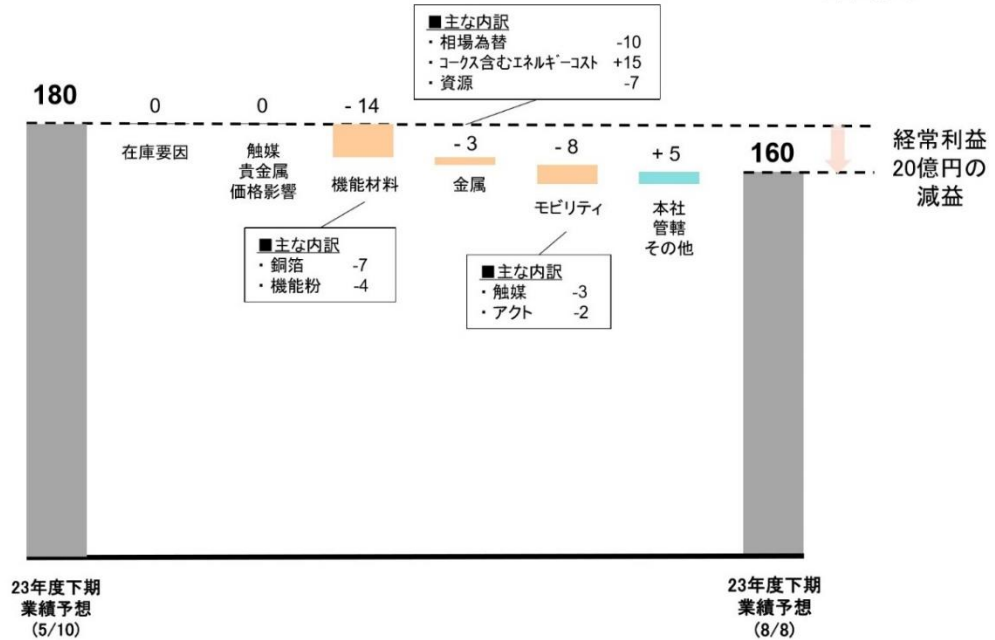
・営業外としては、6月29日に開示しておりますとおり、第1四半期に日韓共同製錬の受取配当金を66億円計上いたしました。その他営業外損益と合わせ、上期の経常利益としては40億円のプラスを見込んでおります。



## 23年度下期経常利益見込

23年度下期経常利益は前回業績予想比で20億円の減益を見込む

(単位:億円)



次に下期業績予想の内容についてご説明いたします。決算説明資料17ページをご覧ください。

・5月に公表した業績予想では下期の経常利益を180億円としておりましたが、今回160億円と20億円下方修正いたしました。

・セグメント毎の内訳としては記載の通りですが、全体として5月の予想では下期に市場が大きく回復する前提としておりましたが、足元の状況を踏まえるとそこまでの回復は見込みづらいことから、機能材料およびモビリティセグメントで販売量を見直したことが下方修正の主な要因となっています。

・これと先ほどご説明した上期見込みを合わせますと、決算説明資料5ページに記載の23年度の通期経常利益見込み200億円となります。

・なお、配当予想については一株当たり中間配当70円、期末配当70円の年間140円に変更はございません。

## 事業セグメント別内訳

(単位: 億円)	第1四半期			上期			通期		
	2023 実績	2022 実績	増減 (23-22)	2023 今回予想	2022 実績	増減 (23-22)	2023 今回予想	2022 実績	増減 (23-22)
■売上高									
機能材料	287	366	-79 -21.5%	580	657	-77 -11.7%	1,270	1,125	145 12.9%
金属	524	637	-113 -17.7%	1,170	1,348	-178 -13.2%	2,430	2,564	-134 -5.2%
モビリティ	554	498	55 11.1%	1,030	1,092	-62 -5.6%	1,900	2,165	-265 -12.2%
本社管轄	269	302	-33 -11.1%	530	637	-107 -16.8%	1,170	1,281	-111 -8.7%
調整額	-159	-153	-6	-360	-310	-50	-720	-615	-105
連結	1,475	1,651	-176 -10.6%	2,950	3,424	-474 -13.8%	6,050	6,520	-470 -7.2%
■経常利益									
機能材料	32	91	-59 -64.5%	54	124	-70 -56.3%	135	107	28 26.1%
金属	16	130	-113 -87.4%	20	133	-113 -85.0%	90	91	-1 -0.9%
モビリティ	9	22	-12 -55.9%	8	75	-67 -89.4%	50	32	18 56.3%
本社管轄	4	4	0 0.0%	0	2	-2 -100.0%	18	7	11 144.6%
事業創造	-16	-15	-1	-36	-32	-4	-79	-66	-13
調整額	5	23	-18	-6	37	-44	-14	28	-42
連結	51	254	-204 -80.0%	40	340	-300 -88.2%	200	199	1 0.6%

Copyright © Mitsui Mining & Smelting Co., Ltd. All Rights Reserved.

三井金属

7

それでは第1四半期の業績についてご説明いたします。決算説明資料7ページの「事業セグメント別内訳」をご覧ください。

・第1四半期の売上高は、前年同期比10.6%減少し、1,475億円となりました。三井金属アクトにおいて前年度半導体不足および中国ロックダウンの影響を大きく受け減少していた売上高が戻ったこと等によりモビリティセグメントでは増収となっておりますが、金属価格が大幅に下落した影響を大きく受け、金属セグメントで113億円(17.7%)と大きな減収となりました。また、前年度第1四半期は好調だった銅箔の販売量が、一般箔、マイクロシンともに回復途上であること等から機能材料セグメントでも79億円(21.5%)の大幅な減収となりました。

第1四半期の経常利益をセグメント毎に見ていきます。

・機能材料セグメントは、銅箔事業において、MicroThin™の販売量が前年同期比で約24%減少したことや、薄膜材料事業における販売数量減少の影響などにより、当セグメントの経常利益は前年同期比64.5%減益の32億円となりました。

・金属事業セグメントは、日韓共同製錬からの受取配当金66億円や円安の効果はあったものの、金属価格下落により、減益となったこと、また在庫要因の影響が115億円のマイナスとなったこと等により、セグメント全体では前年度同期比87.4%減益の16億円となりました。

・モビリティセグメントは、三井金属アクトは、前年度半導体不足および中国ロックダウンの影響を大きく受け減少していた売上高が戻ったこと等により8億円の増益となったものの、貴金属価格下落により、触媒事業における貴金属価格影響で30億円の減益となったこと等により、経常利益は前年同期比12億円減益の9億円となりました。



## 経常利益差異分析

(単位: 億円)

	経常利益			差異内訳					
	23Q1	22Q1	差異	増減販・ 増減産差	相場・為替	在庫要因	マージン・ コスト他	持分法	計
機能材料	32	91	-59	-33	-1	-	-25	-	-59
金属	16	130	-113	4	-14	-115	15	-3	-113
モビリティ	9	22	-12	13	-41	-	16	-	-12
本社管轄	4	4	-0	2	1	-	0	-3	-0
事業創造	-16	-15	-1	-	-	-	-1	-	-1
調整額	5	23	-18	-	-7	-	-11	-	-18
全社 計	51	254	-204	-14	-62	-115	-7	-6	-204

・決算説明資料8ページに各セグメントの経常利益差異について、要因別に分析したマトリックスを掲載しておりますので、ご参照願います。

## セグメントの業績(1) 機能材料

(単位: 億円)

	23/Q1 実績	22/Q1 実績	増減 (23-22)	上2023 今回予想	上2022 実績	増減 (23-22)	FY2023 今回予想	FY2022 実績	増減 (23-22)
■売上高	287	366	-79	580	657	-77	1,270	1,125	145
■営業利益	27	80	-53	55	109	-54	140	99	41
■経常利益	32	91	-59	54	124	-70	135	107	28
※実力損益	28	87	-59	50	118	-68	131	110	21

※実力損益：経常利益から在庫要因を除いたもの

(機能材料製品)	(主な用途)
機能性粉体 (電池材料)	 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハイブリッド車向けニッケル水素電池</li> <li>・電気自動車向けリチウムイオン電池</li> </ul>
機能性粉体 (機能粉)	 <ul style="list-style-type: none"> <li>・各種電子部品</li> <li>・ガラス研磨材</li> </ul>
銅箔	 <ul style="list-style-type: none"> <li>・高密度半導体パッケージ材料</li> <li>・プリント配線基板</li> </ul>
薄膜材料	 <ul style="list-style-type: none"> <li>・フラットパネルディスプレイ</li> </ul>

### 経常利益の増減説明

[ 上2022→上2023予想 - 70]

銅箔 -48(電解銅箔・MicroThin™減販他)  
機能粉 -8(主要製品減販他)  
薄膜材料 -6(在庫要因悪化他)

[ FY2022→FY2023予想 + 28]

銅箔 +33(電解銅箔・MicroThin™増販他)

次に「第2四半期累計期間」および「通期の見通し」については、先ほど山下よりご説明の通りですが、セグメント毎にもう少しご説明いたします。

機能材料について決算説明資料12ページの「セグメントの業績(1)機能材料」をご覧ください。

・第2四半期累計期間の経常利益は、前年同期比70億円の減益の54億円を見込んでいます。右下の増減説明にあるとおり、電解銅箔およびMicroThin™の販売量が前年に届いていないこと等により、銅箔事業で48億円の減益。電子材料市況の戻りが遅く、各種製品が減販となっていること等から機能性粉体事業で8億円の減益。薄膜材料事業では減販と在庫要因悪化等により6億円の減益といったことが、その主な要因です。

・通期の経常利益は前年比28億円増益の135億円と予想しています。電解銅箔およびMicroThin™の市況が戻ってくると見ていることから銅箔事業において33億円の増益を見込んでいたことが大きな要因となっています。

## セグメントの業績(2) 金属

(単位: 億円)

	23/Q1 実績	22/Q1 実績	増減 (23-22)	上2023 今回予想	上2022 実績	増減 (23-22)	FY2023 今回予想	FY2022 実績	増減 (23-22)
■売上高	524	637	-113	1,170	1,348	-178	2,430	2,564	-134
■営業利益	-61	107	-168	-50	93	-143	10	41	-31
■経常利益	16	130	-113	20	133	-113	90	91	-1
※実力損益	70	69	2	77	123	-46	147	128	19

※実力損益：経常利益から在庫要因を除いたもの

### 経常利益増減分析

	上2022→ 上2023予想	FY2022→ FY2023予想
相場・為替	-24	-38
T/C条件(亜鉛)	11	16
たな卸資産在庫要因	-67	-20
持分法損益	-19	-24
エネルギーコスト	-29	-3
(上記のうち、コークス)	(14)	(26)
受取配当金	60	60
その他※	-45	8
合計	-113	-1

### 2023年度年間損益感応度(経常損益)

(単位: 億円)  
フルオープン 予約含む

	±100\$/t	14.4	13.4
亜鉛(LME)	±100\$/t	14.4	13.4
鉛(LME)	±100\$/t	6.6	6.6
為替	±1yen/\$	6.7	6.0

### 亜鉛TC条件

	230 \$/t	
FY2022	230 \$/t	
FY2023	274 \$/t	・3,000\$/t以上で+6%

### ※その他の主な内訳

上2022→ 上2023予想	亜鉛・鉛固定費(定修他)-23、資源事業-13、PGMリサイクル-8
FY2022→ FY2023予想	亜鉛・鉛固定費(定修他)-29、鉛原料代差-5、銅製錬操業好転(定修他)+35、銅製錬固定費(定修他)+26、資源事業-15

続きまして金属事業セグメントです。決算説明資料13ページの「セグメントの業績(2) 金属」をご覧ください。

・第2四半期累計期間の経常利益は20億円、前年同期比113億円の減益を見込んでいます。左下の増減説明にあるとおり、日韓共同製錬の66億円を含む受取配当金で60億円のプラスとなっているものの、金属価格下落に伴う在庫要因で67億円悪化していることや、上期と比較するとエネルギーコストが上昇していること等によりセグメント全体では大きな減益を見込んでいます。

・通期の経常利益はほぼ前年度並みの90億円と見込んでいます。相場・為替で38億円の悪化と記載しておりますが、円安により37億円の好転要因となっているものの、金属価格の下落により75億円と大きなマイナス要因となっています。一方で受取配当金によりマイナス要因を打ち消すかたちで前年度並みの利益となると見込んでいます。



## セグメントの業績(3) モビリティ

(単位: 億円)

	23/Q1 実績	22/Q1 実績	増減 (23-22)	上2023 今回予想	上2022 実績	増減 (23-22)	FY2023 今回予想	FY2022 実績	増減 (23-22)
■売上高	554	498	55	1,030	1,092	-62	1,900	2,165	-265
(内、三井金属アクト)	(232)	(188)	(44)	(474)	(418)	(56)	(959)	(860)	(99)
■営業利益	-2	-5	2	5	38	-33	55	34	21
(内、三井金属アクト)	(-0)	(-11)	(11)	(-2)	(-11)	(10)	(10)	(-14)	(24)
■経常利益	9	22	-12	8	75	-67	50	32	18
(内、三井金属アクト)	(3)	(-5)	(8)	(1)	(-4)	(5)	(11)	(-6)	(17)
※実力損益	49	32	18	68	67	1	110	63	47

※実力損益：経常利益から触媒貴金属価格影響を除いたもの

### 経常利益の増減説明

(モビリティ事業本部)	(主な製品)
触媒	・二輪車・四輪車 排ガス浄化用触媒
三井金属アクト	・自動車用ドアロック
三井金属 ダイカスト	・ダイカスト製品

[ 上2022→上2023予想 -67 ]

触媒 -77(貴金属価格影響他)  
アクト +5(コスト改善他)  
ダイカスト +6(歩留改善他)

[ FY2022→FY2023予想 +18 ]

触媒 -6(増販、貴金属価格影響他)  
アクト +17(増販、コスト改善他)  
ダイカスト +10(増販、歩留改善他)

### アクト増減分析

	上2022→ 上2023予想	FY2022→ FY2023予想
増減販	-4	12
コスト削減	9	5
その他※	-	-
合計	5	17

※その他の主な内訳

	上2022→ 上2023予想	FY2022→ FY2023予想
鋼材等材料価格上昇	-2	-2
為替差	-2	1
輸送費好転	7	7

モビリティセグメントについて、決算説明資料14ページの「セグメントの業績(3)モビリティ」をご覧ください。

・第2四半期累計期間の経常損益は8億円、前年同期比67億円の減益となる見込みです。右下の増減説明にあるとおり、触媒事業においては、二輪向け、四輪向けともに販売量は増加しているものの、貴金属価格影響が前年度のプラス8億円からマイナスの60億円と68億円の減益要因となることなどから、同事業で77億円の減益を見込んでいます。また三井金属アクトにおいては、コスト改善の影響等により5億円の増益を予想しています。

・通期の経常利益は前年比18億円増益の50億円を見込んでいます。貴金属影響等により触媒事業が6億円の減益を見込むものの、三井金属アクトやダイカスト事業が増販やコスト改善の影響などでそれぞれ増益を見込んでいることが、主要要因です。

### ■質疑応答

#### 【全体】

- Q. 今回の通期業績予想で一過性要因(在庫要因、触媒貴金属影響、および受取配当金)を排除した利益はほぼ前回予想並みで横ばいに見えるが、この決算をどのように評価しているか。
- A. 各事業の営業利益について、機能材料は銅箔の下期を見直したがほぼ想定通りで、金属は資源(ワンサラ鉱山)の通常操業への移行遅れや相場の弱さで悪化したが、モビリティの好転で挽回している。本社管轄その他は、事業創造本部でコスト減やサンプル収入の好転がありプラスとなっている。結果的には5月の前回予想から実態の事業は大きく変化していないと考えている。
- Q. 機能材料、金属、モビリティについて、1Qから2Qにかけての経常利益の推移について補足いただきたい。

- A. 1Qから2Qの推移について、資料P21に在庫要因と貴金属価格影響を除く利益を載せており、経常利益は営業外の為替差損益が多く含まれているため、上段の営業利益がより実態を表していると考えます。

機能材料は、1Qでは銅箔の原価計算で簿価が高い在庫が払い出されている影響が10億円から15億円ほどあり、そのため営業利益は1Qより2Qが好転している。ただし、販売量ではMicroThin™が1Qから2Qにかけて減少しているため、原価計算の影響を除くと、実力ベースの利益は1Qから2Qにかけて減少している。

金属は、1Qから2Qにかけて電力の燃料調整によりエネルギーコストの減少が10億円ほど見込まれる。また、1Qに八戸大定修15億円があったため、営業利益は1Qから2Qにかけて好転を見込んでいる。

モビリティについて、触媒では1Qで見ていた開発費関係が2Qに延びたこと、三井金属アクトでも開発関係の固定費増加を織り込んでいることから、1Qから2Qにかけて主にコスト増による営業利益の減少を見込んでいる。

- Q. 資料P5のその他の営業外収益について、為替差益等という理解でよいか。

A. その通りで、為替差益が半分程度である。

#### 【機能材料セグメント】

- Q. 機能材料セグメントで、資料P10の販売量では数量が計画に対して上回っているものは限られるが、上期経常利益見込は上振れており、理由を教えてください。

A. 利益の上振れは、基本的にはコスト減による。例えば銅箔では、エネルギーコストの減少などが挙げられる。機能粉では、資料に載せていない各種製品の販売量が増えている要因が大きい。

- Q. MicroThin™について、今の受注状況と今回業績予想での考え方を、HDIとPKGに分けて教えてください。

A. HDI向けは5月の前回予想より1Qでの受注が上振れており、2Qや下期以降も、メインの北米スマホメーカーの販売台数が2022年度を上回るだろうと見ている。

PKG向けは、4Qにお客様が在庫を絞りすぎた反動で、在庫需要も含めて1Qに受注が多く来ている。その結果、1Qから2QにかけてPKG向けは落ちるが、これは在庫需要部分の剥落で、実需ベースでは2Qの水準のほうが近いと感じており、スマホ向け、非スマホ向けのメモリ関係を中心に、下期は回復基調で推移していくと見ている。5月の前回予想は、下期に本格的に回復すると見ていたが、今回予想は、本格的な回復は年明け以降と見方を変えているため通期の販売量は落ちている。

- Q. MicroThin™のPKG用途について、足許から下期にかけての需要回復はスマホや非スマホなどが大きく影響するか。

A. 足許の需要回復について、基本的にはスマホ向け、非スマホ向け両方が回復していると見ている。スマホ向けは通信モジュール系など、非スマホ向けはサーバーのメモリ用途などの需要増だが、1Qは在庫需要も大きく入っている。

下期にかけての需要回復も、スマホ向け、非スマホ向け両方が影響すると考えているが、スマホ向けについては、中華系スマホの回復状況等を注視する必要がある。どちらかと言うと非スマホ向けのサーバーなどのメモリ用途のほうが、期待感が大きい。

- Q. MicroThin™のについて、コスト減による損益の上振れを補足いただきたい。また、急激な数量の変化で余計なコストアップはないか、マージンの変化についても説明いただきたい。

A. MicroThin™は、電力代が想定ほどかからなかったことや、4月からの一部値上げの効果が入っている。そのため、MicroThin™は従来の限界利益近くまで戻る可能性はある。

余計なコストアップについて、今回急激な数量変動で、銅箔の4Q生産量は非常に少なく、それに伴う単位当たりのコストや在庫評価が非常に高くなった。今年度1Q以降に高い在庫が払い出されるため、1Qで10億強ぐらいのコストアップ要因となっている。あくまで短期的であり、このまま通常の生産販売等が継続すれば、自然と在庫評価やコストは平準化されると見ている。

- Q. 電解銅箔について、新しいアプリケーションの今後の伸びのポテンシャルや、需要回復が遅れるところ、それ以外の構造的な要因での変化などを確認させていただきたい。
- A. 電解銅箔は下期から回復と見ているが、通信インフラ向け、特にローエンド、ミドルレンジのサーバー、携帯基地局、データセンターなどは足許は若干回復ぐらいである。ただし、通信インフラ向けについて、ハイエンド向けのVSPという品種があり、こちらがいわゆるAIサーバーなどに採用されそうだとということで、当社としても非常に期待している。
- Q. 電解銅箔のVSPのAIサーバー関連の引き合いについて、販売数量や損益的にはどのような影響があるのか。
- A. 引き合いはもう既に来ているが数量についてはまだ正確に見込めておらず、今回の業績予想には、大きく織り込んでいない。今後の需要動向等を注視していきたいと考えている。

#### 【金属セグメント】

- Q. 金属セグメントの実力利益について、資料P13から上期の配当金を除いたベースでは下期に損益が改善するが、これはエネルギーコストなどのコスト要因が大きいのか。
- A. 資料P18に上期から下期にかけての配当を除いた増益要因を記載しており、主な内訳は、エネルギーコスト減少26億円、1Qの亜鉛製錬大定修15億円が下期では発生しない、あとは原料構成差、固定費減等で15億円の好転という内容である。
- Q. 金属の原料構成差の改善は、亜鉛のTCの好転か。
- A. リサイクル原料比率の高まりが下期の原料構成差の好転要因になっている。

#### 【モビリティセグメント】

- Q. 触媒について、上期好調な一方で下期の業績予想を下げた背景は何か。
- A. 触媒は上期から下期に販売量を下げて見ている。まず二輪向けは、インドで10月のディワリ商戦に向けた作り込みが上期にあるため、下期にかけて販売量が落ち着く季節的要因がある。四輪向けは、5月の前回予想で、中国のEV化進展から中国向け四輪触媒の減販リスクを織り込んだが、今のところ減販は限定的で、上期は想定を上振れる見込みである。ただし下期には、5月時点で見込めたリスクを引き続き織り込んでいる。
- Q. モビリティについて、通期の利益予想は今回35億円減額修正に対し触媒貴金属影響が60億円のマイナス要因のため、それを除くと5月の前回予想より好転しているという理解でよいか。それはどのような要因によるか。
- A. モビリティは、触媒貴金属価格影響を除くと実力利益は好転しており、増益のうち半分以上は増販による影響と見ている。

以上